

「エルサレム滅亡の予告」

2015年12月05日

ルカによる福音書 21 章 20 節～24 節。「エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たら、その滅亡が近づいたことを悟りなさい。そのとき、ユダヤにいる人々は山に逃げなさい。都の中にいる人々は、そこから立ち退きなさい。田舎にいる人々は都に入ってはならない。書かれていることがことごとく実現する報復の日だからである。それらの日には、身重の女と乳飲み子を持つ女は不幸だ。この地には大きな苦しみがあり、この民には神の怒りが下るからである。人々は剣の刃に倒れ、捕虜となってあらゆる国に連れて行かれる。異邦人の時代が完了するまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされる。」

上記の御言葉はエルサレム滅亡の「事後予告」と読むべきであろう。聖書はしばしば、起こった事実を、それ以前の人が予告して語ったという書き方をしている。旧約聖書の預言書には、この「事後預言」と思われる言葉が多い。ルカ福音書の著者は、70年に滅亡したエルサレムを知っており、その滅亡の模様を、主イエスの口に乘せたものと思われる。

エルサレムの住民はローマの圧政に反抗し、暴動を起こした。ローマのウェスパシアヌス将軍は6万の軍隊で鎮圧しようとした。ネロ皇帝の自殺事件が起こり、ローマ軍は一時撤退した。エルサレムの住民は神の守りであると喜んだが、皇帝になったウェスパシアヌスの息子ティトゥスは8万の大軍を率いてエルサレムを包囲した。エルサレムは三重の城壁で囲まれ、難攻不落の町と言われていた。ローマ軍は食料と水を断つ、兵糧攻めをした。住民たちは凄まじい飢えに見舞われた。餓死者が出ても葬ることさえできないほどで、餓えた母親は我が子を食べたという話も伝わっている。申命記 28 章 51 節～53 節に「彼らはすべての町であなただを攻め囲み、あなたが全土に築いて頼みとしてきた高くて堅固な城壁をついには崩してしまう。彼らは、あなたの神、主があなたに与えられた全土のすべての町を攻め囲む。あなたは敵に包囲され、追いつめられた困窮のゆえに、あなたの神、主が与えられた、あなたの身から生まれた子、息子、娘らの肉をさえ食べるようになる」と書かれているが、エルサレムは地獄の戦場となり、荒野と化した。

エルサレムが陥落した時、10万人の捕虜、100万人以上の死者が出たとされている。エルサレムは「神の都」と言われていたが、歴史的には幾多の戦乱を経験し「悲劇の町」であった。エルサレム滅亡の中で、逃げ延びた人々もいた。それが、上記の記述である。エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たら、滅亡が近づいたことを悟りなさい。その時は、人々は山に逃げなさい。都の中にいる人々は、そこから立ち退きなさい。田舎にいる人々は都に入ってはならない。逃げ延びる方法を書いている。しかし、身重の女と乳飲み子を持つ女は逃げられず、不幸である。人々は剣の刃に倒れ、捕虜となってあらゆる国に連れて行かれ、エルサレムは異邦人に踏み荒らされる。エルサレム滅亡によって、ユダヤ人は国を失い、異邦のローマ人に蹂躪され、世界を流浪する民となった。

ルカ福音書の著者は、この大きな苦しみは報復の預言が実現し、神の意思である怒りが下った日と捉えている。主イエスを信じる群れは、エルサレム滅亡を機に、ユダヤ教イエス派から脱皮し、キリスト教としてローマ帝国各地に展開していく。教会を立て、神を信じ、互いに愛し合いなさいという「福音」を宣教し続け、幾多の迫害を乗り越え、人々の心をつかんでいく歴史を刻んでいったのである。キリスト教は、混乱の時に、愛と真実の真価を表すのではないか。